



(2003年11月)

【今後の学会活動予定】

1. 平成16年度大会開催予定

日時：平成16年3月28～30日（日～火）
会場：福岡国際会議場（福岡市博多区，
<http://www.marinemesse.or.jp/kaigi>）
問合せ先：九州大学農学部植物病理学研究室内
平成16年度日本植物病理学会大会事務局
TEL/FAX: 092-642-2834
E-mail: byouri@agr.kyushu-u.ac.jp

2. 談話会，研究会開催予定

(1) 第7回 植物ウイルス病研究会

日時：平成16年3月31日（水）
会場：九州大学国際ホール（福岡市）
問合せ先：大阪府立大学大学院
農学生命科学研究科 大木 理
TEL/FAX: 0722-54-9410
E-mail: ohki@plant.osakafu-u.ac.jp

(2) 第7回植物病害生態研究会

日時：平成16年3月31日（水）
会場：九州大学農学部（福岡市）
問合せ先：東北農業研究センター 地域基盤研究部
病害管理研究室 石黒 潔
TEL/FAX: 019-643-3465
E-mail: ishiguro@affrc.go.jp

(3) 第14回殺菌剤耐性菌研究会

日時：平成16年3月31日（水）
会場：九州大学農学部（福岡市）
問合せ先：(独)農業環境技術研究所
化学環境部 石井英夫
TEL/FAX: 029-838-8307
E-mail: hideo@niaes.affrc.go.jp

(4) 第40回 植物感染生理談話会

日時：平成16年7月21～23日（水～金）
場所：ホテル松島大観荘（宮城県松島町）
問合せ先：東北大学大学院農学研究科
高橋英樹
TEL/FAX: 022-717-8659
E-mail: takahash@bios.tohoku.ac.jp

(5) 第22回 土壌伝染病談話会

日時：平成16年9月8～10日（水～金）
場所：かでの27（札幌市）
問合せ先：北海道大学大学院農学研究科
内藤繁男
TEL/FAX: 011-706-4938
E-mail: nais@res.agr.hokudai.ac.jp

【今後の関連学会情報】

1. 日本農薬学会第29回大会

日時：平成16年3月24～26日（水～金）
会場：神戸国際会議場
（神戸市中央区，総会，授賞式，受賞講演，
特別講演，懇親会・受賞祝賀会）
神戸大学・大学教育研究センター
（神戸市灘区，一般講演，シンポジウム）
問合せ先：神戸大学遺伝子実験センター内
日本農薬学会第29回大会組織委員会事務局
TEL: 078-803-5861
FAX: 078-871-3617
E-mail: yorikos@kobe-u.ac.jp

2. 第48回日本応用動物昆虫学会

日時：平成16年3月26～28日（金～日）
26日：開会挨拶，学会賞授賞式および受賞講演，総会，一般講演，懇親会

27日：一般講演，シンポジウム講演，小集会

28日：一般講演

会場：一般講演・総会；京都工芸繊維大学松ヶ崎
キャンパス

懇親会；宝ヶ池プリンスホテル

大会事務局：〒606-8585 京都市左京区松ヶ崎御所海道町
京都工芸繊維大学繊維学部応用生物学科化学
生態学教育研究分野内

応動昆大会事務局

TEL/FAX: 075-724-7787

E-mail: yamaoka@ipc.kit.ac.jp

3. 日本菌学会第48回大会

日時：平成16年5月28～30日（金～日）

会場：県立長崎シーボルト大学

問合せ先：〒851-2195 長崎県西彼杵郡長与町まなび野
1-1-1

看護栄養学部 栄養健康学科 上田 成一

TEL/FAX: 095-813-5213

E-mail: s-ueda@sun.ac.jp

【今後の関連国際学会情報】

1. NIAS-COE/PROBRAIN/TOKUTEI 合同国際シ ンポジウム開催のお知らせ

Plant Immunity -signalings to acquired resistance-
(植物免疫—抵抗性獲得への情報伝達—)

日時：2004年3月4日（木）10：00～3月5日（金）
17：00

会場：つくば国際会議場エポカルつくば 2F 中ホール
(茨城県つくば市竹園2-20-3)

問合せ先：農業生物資源研ホームページ

<http://www.nias.affrc.go.jp/symp/20040304/index.htm>

参加登録の詳細：coesympo@convention.co.jp

ポスター要旨：COE@nias.affrc.go.jp

〒305-8602 茨城県つくば市観音台2-1-2

(独)農業生物資源研究所生理機能研究グループ
大橋 祐子

TEL: 029-838-7440 FAX: 029-838-7469

E-mail: yohashi@affrc.go.jp

【学会活動状況】

1. 研究会開催報告

・第39回感染生理談話会開催報告

今年度の植物感染生理談話会は、8月21日の午後から23

日午前中にかけて、木曾川のほとりの、日本最古の木造山城であり国宝の「犬山城」が見下ろす、愛知県犬山市の「ホテル犬山館」にて開催された。今年度は「作物の耐病性強化戦略と植物-病原体相互作用の分子機構研究」をテーマとして、「分子生物学的基礎研究の成果を実用的に応用する戦略」の展開を目指した。本談話会は、24年振りに、名古屋大学の学会関係者が中心となって企画・運営され、若い学生会員から90才を越える名誉会員まで、また非会員を含めて総勢123人の参加者が集い、活発な研究討論と相互交流が行われた。

本談話会の内容は、植物ウイルス病、植物細菌病および植物糸状菌病における「耐病性強化に向けて」、それぞれの分野のベテランの先生からまず基調報告として、「植物-病原体相互作用における分子機構研究の現状と耐病性強化戦略」について話題提供があり、2名の若手の先生方から、それぞれ事例報告として耐病性強化戦略の具体的な取り組みについて話があり、耐病性強化の叢智を共有し議論を深めた。

また、別名「夏の学校」にふさわしく、1日目の夜の特別セッションとして、「鈴木直治先生を囲む会」が企画された。鈴木先生のいまだ澁刺とした含蓄のある話題提供に花がさき、過去、現在および未来が一つとなって語りあえる楽しい有意義な時間を過ごした。2日目の夜のポスターセッションでは、若手による15題のポスター発表があり、夜更けまで活発な討論が繰り広げられた。さらに、特別講演として、植物分子生物学ならびに植物バイオテクノロジーの分野の先端で活躍されている名古屋大学生命農学研究科の水野 猛教授に「His-Asp リン酸リレーと植物の情報伝達」、松岡 信教授に「植物ゲノムサイエンスと作物生産の課題と展望」と題して、それぞれ熱の入った講演があった。

最終日の午前中には総括セッションがもたれ、ベテランの先生から「我国における分子植物-微生物相互作用研究の発展に向けて」の基調報告があり、3人のパネラーにより、宿主-微生物相互作用研究における「協力推進と課題」、「若手研究者の育成と課題」および「国際協力の推進と課題」について話題提供があった。会場の参加者とともに活発に意見が交わされ、示唆に富む有意義な討論を経て締めくくられた。最後に、世話人より参加者の投票により選ばれた1名に「ベストポスター賞」が授与され、次年度は東北大学の関係者が中心になって開催される予定が報告され、再会を期して散会した。

なお、本談話会の報告内容は植物感染生理談話会論文集(第39号)として発行された。(道家紀志)

2. 部会活動状況

(1) 部会開催状況

①北海道部会

平成15年10月23～24日

北海道大学大学院農学研究科多目的ホール(札幌市)

②東北部会

平成15年9月24～25日

仙台市福祉プラザ(仙台市)

③関東部会

平成15年9月19～20日 千葉大学園芸学部(松戸市)

④関西部会

平成15年10月18～19日 近畿大学農学部(奈良市)

⑤九州部会

平成15年9月18日

宮崎県立図書館研修ホール(宮崎市)

(2) 部会開催報告

①北海道部会

平成15年度北海道部会は10月23日(木)と24日(金)の2日間にわたって、北海道大学大学院農学研究科多目的ホールで97名が参加して開催された。23日は午後1時半から第129回談話会を行った。「花き病害をめぐる情勢と展開方向」の統一テーマのもと、花きの生産・流通をめぐる情勢(篠田浩一氏:北海道農業研究センター)、北海道における花き病害の現状と問題点(小松 勉氏:道立花野菜センター)、ユリのウイルス病の研究成果(佐々木 純氏:道立中央農試)について話題提供があり、活発な討論が行われた。夕刻には懇親会が催され、2時間にわたり活発な意見交換がなされた。翌24日には、午前9時30分から一般講演が行われた。25題(菌類病関係14題、ウイルス病関係11題)の研究成果が午前11題、午後14題に分けて発表され、熱心な質疑応答がなされた。また、午後の講演に先立って総会が行われ、15年度の行事や会計報告等部会会務が報告され承認された。特に、次年度は9月に馬鈴薯そうか病国際シンポジウム(9/6～7)及び土壌病談話会(9/8～10)が予定されており、部会としても積極的に支援することが承認された。(内藤繁男)

②東北部会

平成15年度の日本植物病理学会東北部会は平成15年9月24(水)、25日(木)の2日間にわたり、仙台市福祉プラザで開催された。参加者は105名であった。今年度から講演要旨集が出され、参加者からは大変好評であった。一般講演題数は29題で、その内訳は菌類病11題、細菌病1題、

ウイルス・ウイロイド病17題、うち感染生理関係5題であり、連日活発な討議がなされた。初日の講演終了後、部会幹事会が開催され、庶務、会計報告のあと、次年度の部会長、部会幹事の一部変更などが審議された。さらに次年度の開催は福島県が担当することが了承された。また、最近、部会参加者がますます大学関係者に偏向してきている傾向の強いことが問題となり、部会長を中心に幹事会の中に「部会のあり方検討の作業部会」を結成し、特に県職員の会員が参加しやすい形を工夫する方向で検討していくことになった。なお、次年度は東北部会創立40周年を迎えることから、幹事会の中に40周年記念事業検討委員会を結成し、内容について議論することが提案された。懇親会は、初日午後6時から同会場で開催され、江原淑夫宮城県立農業短期大学学長の歓迎の挨拶、山中 達名誉会員の音頭による乾杯の後懇親に移り、盛大ながらも和やかな雰囲気のもとに終了した。2日目には9時から部会総会が開かれ、前日の幹事会で審議された事項が提案され、異議なく承認された。(生井恒雄)

③関東部会

平成15年度関東部会は、9月19日(金)、20日(土)の2日間にわたり、千葉大学園芸学部(松戸市)キャンパスにおいて開催された。参加者は228名に達し、演題数は52題で、その内訳は菌類病関係35題、細菌・ファイトプラズマ病関係8題、ウイルス・ウイロイド病関係9題であった。講演は1日目28題、2日目24題で、昨年度と同様に大会並みの発表と討論時間を確保することができ、活発な質疑応答が交わされた。昼食時にもたれた評議員会では、東京農工大の寺岡 徹氏を次期部会長として推薦する旨の提案があり、了承された。また、1日目の講演終了後は同キャンパス内の生協食堂において、約60名の参加者を得て懇親会がもたれ、山口 昭名誉会員の音頭による乾杯の後、なごやかな歓談が約2時間続けられた。本年度はパワーポイントによるプレゼンテーションがほとんどを占めたが、特にトラブルもなく盛会裡に部会を終了することができた。会員諸氏のご協力に感謝する次第である。(雨宮良幹)

④関西部会

平成15年度関西部会は、開催地委員長の豊田秀吉氏、幹事の松田克礼氏を中心に周到に準備され、10月18日(土)、19日(日)の2日間にわたり、近畿大学農学部で開催された。昨年度に引き続き、今年度も開催地委員長の提案により、ノーネクタイでの参加が案内され、カジュアルな服装で242名が出席した。講演演題数は90題(分子生物学22、

感染生理18, 同定・分類・発生生態21, 細菌10, ウイルス, 防除19)で, 3会場に分かれて発表され, リラックスした雰囲気の中で真摯で活発な質疑応答が行われた。1日目の講演発表会終了後, 同大学食堂, ログハウス“桜月”で恒例の懇親会が131名の参加を得て盛大に行われ, 会員間の懇親が深められた。部会役員会は, 部会の1日目の午前中に同大学の教室棟, “まほろば館”で開催され, 行事, 役員異動, 会員数等の庶務報告, 会計報告, 特別会計の設置による「若手の会」への補助などの案件が審議・承認された。また, 部会会則に基づく選挙により平成16年度の部会長に眞山滋志氏が選出された旨報告があり, 承認された。部会事務幹事に土佐幸雄氏が推薦され承認された。平成16年度の部会は愛媛県の愛媛大学で開催することが承認され, 開催地委員長に大口富三氏が, 開催地幹事に山岡直人氏が承認された。これらの審議・承認案件は同日午後の部会総会で提案・審議され, 全て承認された。総会終了後, 一般講演に先立ち, 恒例の部会長講演が, 「赤色光による病害防除」と題して行われた。(本田雄一)

⑤九州部会

平成15年度九州部会は例年通り九州農業研究会と共催で, 9月18日(木)宮崎市の宮崎県立図書館研修ホールで開催された。講演題数は28題, その内訳は, 最近話題のカンキツグリーニング病関連3題を含む細菌病6題, 菌類病8題, 防除薬剤関連等7題, ウイルス病7題で, 参加者約100名による熱心な討議が行われた。昼の休憩時間を利用して幹事会が開催され, 役員交代, 会計報告, 次年度開催計画等が審議された。また, 福岡国際会議場にて平成16年3月28~30日に開催予定の平成16年度日本植物病理学会大会ならびに九州大学にて31日開催予定の第7回植物ウイルス病研究会の準備状況の報告と, 大会開催への協力および参加依頼が行われた。部会終了後, 恒例の日本応用動物昆虫学会九州支部との合同懇親会が盛大に行われた。翌日19日には植物病理関係者による第28回シンポジウムが開催された。「重要侵入病害カンキツグリーニング病とその緊急防除対策」(九州沖縄農研センター 岩波 徹氏), 「イモ萎凋病菌とレタス根腐病菌レース3の生態」(九州沖縄農研センター 西村範夫氏), 「遺伝子対遺伝子説からみたいもち病菌の遺伝学」(佐賀大学 八重樫博志氏)の3題の話題提供があり, 活発な論議が行われ, 盛会であった。

(高浪洋一)

【会員の動静】

1. 人事

(1) 大学関係

中島雅己 H15.10 茨城大学農学部植物生体防御学 助教授

(2) 農水省関係等(平成15年10月1日現在)

稲葉忠興 H15.9 退職(農業技術研究機構副理事長)

宮坂 篤 H15.10 中央農業総合研究センター企画調整部連絡調整室室長補佐

秋田 滋 H15.10 果樹研究所カンキツ研究部病害研究室長

伊藤 伝 H15.10 果樹研究所リンゴ研究部病害研究室長

佐藤 剛 H15.10 東北農業研究センター畑地利用部主任研究官

2. 学位取得者(論文博士)

白川 隆 H15.9 新潟大学 博士(農学)スイカ果実汚斑細菌病に関する研究

【書評】

・日本土壌微生物学会編(服部 勉・斉藤雅典・古屋廣光 編集):『新・土の微生物(10)研究の歩みと展望』四六版 210頁, 発行:2003年5月 博友社 ¥2,300(税別)

本書は, 日本土壌微生物学会(前日本土壌微生物研究会)の「土の微生物」シリーズ10巻として, 世界的視野から土壌微生物研究について多くのエピソードを取り入れながらこれまでの研究の歩みを振り返り21世紀の展望を探るものである。研究機関の中長期目標を考えると, 土壌微生物研究を見つめ直し今後の展望をまとめられたことは意義深い。

本書は, 微生物研究全体の動向とともに, 土壌微生物研究および土壌病害研究の歩みについて過去から現在まで概説した後, 土を住家とする細菌の探求, 乾土効果からバイマス研究へ, 土壌病菌生態研究草創期の道しるべ-S. D. Garrettの思索と軌跡-, 生物防除の歩みと21世紀での役割, 根圏と根圏微生物, フザリウム病菌の生態, リゾクトニア属菌の分類と生態的研究の歩み, 窒素はどこからきたのか-窒素固定研究の歩み-, 水田土壌の微生物学-水田土壌の化学から地球温暖化ガス研究へ-など各章ごとに研究の流れと展望が語られている。例えば, 執筆者の一人, 古

屋氏は、「病気の生物的防除は、生物的平衡の文脈のなかでのみ機能するとした Baker & Cook らの指摘から、土壌病原菌の土壌中での生態を明らかにして病害対策に結びつけ生産性の高い土壌を作り上げるには、土壌微生物のホメオスタシス、すなわち、微生物的平衡という現象を正確に描き出すとともに、そのメカニズムを解明していくことが必要である」と述べている。現在、農産物の安全性と環境を確保しながら経済的に成り立つ農業を進めていくうえで多くの課題を抱えている。しかし、これまでも多くの課題について、一つひとつどのように解決してきたか、またどのように解決しようとしているか、本書はわれわれに多くの示唆を与えてくれる。土壌伝染性病害や生物防除に関わっている研究者には必読の書といえよう。本書は210ページと手ごろな量であるが密度の濃い内容のある本である。各章とも研究の歩みは分かりやすく書かれているが、展望に関しては執筆者の思いを込めたさらなる提案がなされても良かったのではないか。この分野で強いリーダーシップを発揮している服部 勉氏の意気込みが感じられる。(鈴木孝仁)

【学会ニュース編集委員コーナー】

情報提供および投稿のお願い

本ニュースは身近な関連情報を気軽に交換することを主旨として発行されております。会員の各種出版物の御紹介、書評、会員の動静、学会運営に対する御意見、会員の関連学会における受賞、プロジェクトの紹介などの情報をお寄せ頂きたいお願いいたします。

投稿宛先：〒170-8484 豊島区駒込1-43-11

日本植物防疫協会ビル内

学会ニュース編集委員会

FAX: 03-3943-6086

または下記学会ニュース編集委員へ：

松山宣明, 塩見敏樹, 竹内妙子, 阿久津克己,
各委員宛

編集後記

学会ニュース第24号をお届けします。今年も残り2ヶ月余りとなり、各地から部会開催報告が送られてきております。会員の皆様方の活発な研究活動が何れも同慶の至りですが、参加者が大学関係者に偏っているとの意見も一部の部会で出ているようです。このような問題に関して会員の皆様方の建設的なご意見をお待ち致しております。本学会ニュースは会員の意見交換の場でもあります。積極的なご参加をお待ち致しております。(松山宣明)

会員のご逝去

永年会員の塩田弘行氏は平成15年7月27日に逝去されました。ここに謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

お詫びと訂正

学会ニュース第23号にて下記の誤りがございましたのでここに訂正し、お詫び申し上げます。

ページ v

永年会員 佐藤昭二

上から14行目

(誤) 平成10年同大学停年退官・名誉教授

(正) 平成10年同大学停年退職